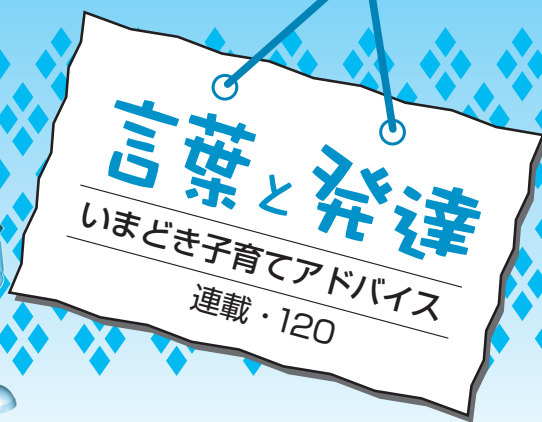




ことばを育てる 遊び方教室

その3



言語聴覚士 中川信子

東京都調布市の健康推進課でSTと保健師中心にトライしている「ことばを育てる遊び方教室」のご紹介、3回目です。本当は3回程度で終わらせるつもりだったのですが、書き始めたらいろいろあつて長引いています。

ちよつとおさらいします。この「ことばを育てる遊び方教室」は、1歳6カ月健診時に、「有意語が出ていない、または少ない」「親御さんのかかわりに改善の余地がある」「発達にちよつと気がかりなところがある」といったお子さんを対象に声かけし、2歳前後からの時期に1回だけ参加してもらうものです。

実際にST（子どもの相談室 ことば）担当言語聴覚士の顔を見て怖い人じゃないと知ってもらつて個別のことばの相談に来ていただくこと、健診場面ではない遊びの場で会う保健師さんの親切であたたかい姿から「何かあ

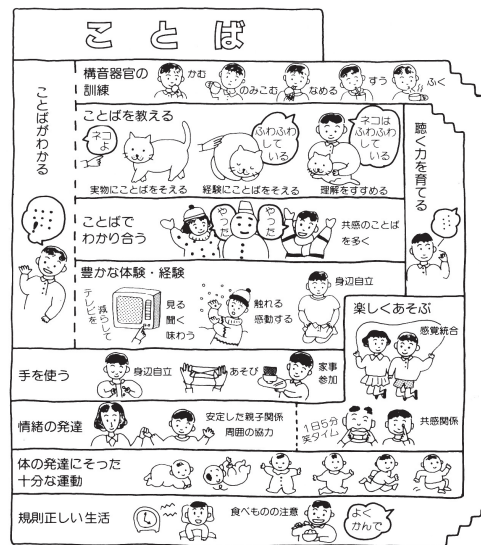
表1 ドラえもん(アンパンマン)のお口にポーン

遊び方	新聞紙がタオルで作ったボールを、段ボールで作ったお人形の口に(投げ)入れる		
材料準備	新聞紙	一組の親子に広げた新聞紙一枚分	
	カラーテープ	カラーガムテープまたはビニールテープ 赤、青、黄、緑など数色	セロテープやガムテープでもボールは作れるが、色の違いに気づき、色名理解につなげたいので、できたら基本の4色(赤・青・黄・緑)のカラーで。紫やピンクや黄緑は避ける。
	ドラえもん(アンパンマン)	60-70センチ高さの段ボール箱で作った人形 大きなお口を開けておく	前面にお口をあけたドラえもんの絵を貼り付けるだけでもいいが、段ボール側面に印刷された文字など、細かいところに気が散るお子さんもいるので、箱の全面を無地の紙で覆うほうがベター。
やり方・ねらい	新聞紙をくしゃくしゃにまるめる	○両手を使ってくしゃくしゃにする ○「クシャクシャ」の音と感触を親子で楽しむ ○おとなが「クシャクシャクシャ〜」と声かけ ○子どもの手で持ちやすい大きさに ○ギッチリ固く丸めないで、すこし柔らかめにしておく そのほうが持ちやすい、当たっても痛くない	
	テープで巻く 色への意識 目と手の協応 自然な声かけ	○「何色にする？」と子どもに選ばせたり、「青(いテープ)で巻こうか」と声かけして色への意識を高める ○テープを巻く・切るの作業で子どもにできる部分を手伝わせる(手を使う作業)	
応用 おうちで遊ぶとき	ドラえもんの口に入れる 目的が明確な行動 見えていたものが 消える楽しさ 繰り返し トライできる 自然な声かけ	○ドラえもんの口に入れる⇒ボールが見えなくなるという因果関係が明確なので、何回でも繰り返して遊びたくなる ○目的が明確なため、保護者が子どもに「ほら入れてごらん」「ここだよ」などとガイドしやすい ○引っ込み思案な子も、他の子たちの流れに巻き込まれて、入れてみようとする ○触覚過敏のある子どもだと、みんなが集まる場所に近づくことへの拒否からいやがる場合がある。無理にはさせない。保護者が代わりにやっても楽しい	
	○カラフルなタオルを使ったボールも作れる	タオルを一回又は二回結ぶ(二回むすべばかなりボールらしい形になる)しっぽがあるために投げて遊ぶときにつかまえやすい 1歳-2歳児は不器用なため、つるつるのボールはつかまえにくい。 タオルで作ったボールは持ちやすい、受け止めやすい、ぶつかっても痛くない、安上がり、いつでも新調できる	

「からだ遊び その1」「ドラえもん(アンパンマン)」のお口にポーン」
お集まり・手遊びのすぐあとに行うからだを使う遊びです。

つたら保健師さんに相談しよう」と思っていたくともめざしています。
また、フォローにつながらない場合でも、実地に体験した遊びのいろいろをおうちでも引き続き実行してもらうことも願っています。
前回説明したのは導入部の「お集まり・手遊び・かわり遊び」について。
今回は、二種類の「からだ遊び」、ミニレクチャー(ビデオ視聴)についてお話しします。プログラムは前回記載のものをご覧ください。

図1 ことばのビル



手遊び歌・かわり遊びの合間に、壁に貼った大きな「ことばのビル」の絵(図1)を使って、「からだを動かすことは脳の発達に不可欠」「手を使うことはことばの発達に不可欠」「手を使うこととことばの発達は関係が深い」などについて簡単に説明しておきます。
それから「さあ、からだを使った遊びをしましょう」と導入すると、保護者の方たちもモチベーションを持って

参加してくださると思います。
遊びの詳細は左ページの表をご覧ください。
段ボールで作ったドラえもん(アンパンマン)の大きなお口に、ボールをポーンと入れる遊びです。(図2)市販のボールを使わずに、保護者とお子さんの自然なかかわりやことばかけのきっかけができるよう工夫してあります。

図2

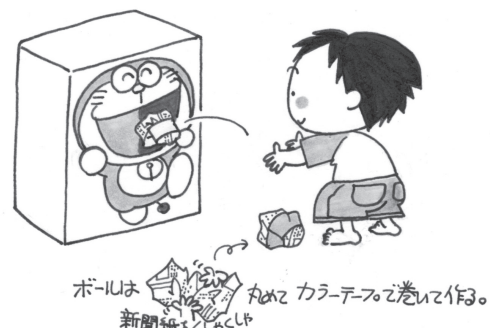
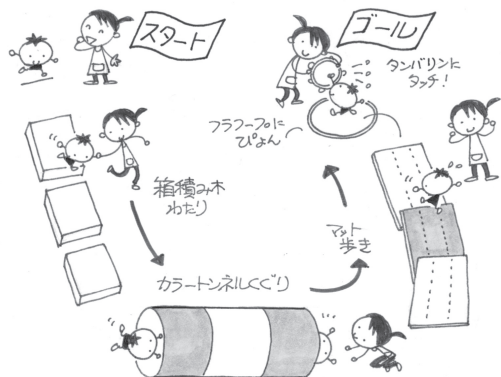


表2 ドラえもん(アンパンマン)のお口にホーン

遊び方	スタート地点からスタートし、セットされた遊具の順番に進み、最後にタンバリンにタッチしてゴールする。何回繰り返してもOK	
使用遊具	箱積み木 (またはブロックなど) カラートンネル ストレッチマット フラフープ タンバリン (ゴール地点で)	
やり方・ねらい	スタート	スタート地点でスタッフが声をかけてスタート スタートゴールの一連の流れを意識する 途中の遊具から始める子がいてもOK。ただし、ゴールの際にスタート地点を意識させるよう声かけ(「あそこから始めてね」)
	箱積み木わたり	○10センチ程度の高さがあるため注意深く歩く ○保護者も自然に手を貸せる(手をつなぐ) ○「ほら乗るよ」、降りる時に「トン！」など自然な声かけができる ○バランス感覚が養われる
	カラートンネルくぐり	○ボディイメージが養われる(四つばい姿勢での移動) ○保護者はトンネルの出口で子どもを誘う(自然な声かけができる)
	マット歩き	○少し柔らかい感触の上を意識して歩く ○マットを重ねて作った傾斜は歩行の練習によい ○マットが、視覚的なガイドの意味をもち、過剰に声かけしなくてもサーキットの流れが作りやすい
	ゴール ゴール位置をフープで示す (タンバリンにタッチ)	○リーダーがタンバリンを持って待つ ○子どもをフープ内に誘導し、「タンバリンにタッチ」と声かけし、一連の流れが終わったことを伝える。成就感を持つため ○子どもがタッチの際に視線を合わせてくれるか観察 ○もっとやりたい子には、スタート位置を示す



休憩・水分補給

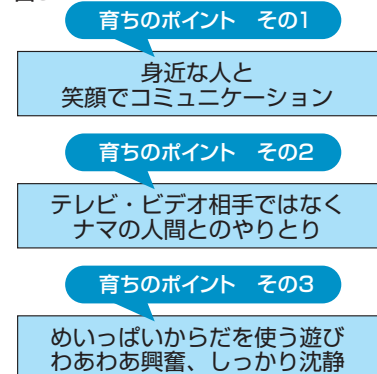
各自で水分補給、トイレ、おむつ交換などを行います。ペットボトルだと分からなくなるので、事前のご案内でお子さんの飲み物はお茶を水筒で持参するようお願いしておきます。水筒は受け入れのときにお預かりして、室内の棚の上に一括して置いておきます。

お茶を飲むような自由場面では、親子関係やお子さんの特性が如実にあらわれます。スタッフのそれぞれが担当したお子さんについて、観察や声かけができるというのが、(実際には、次のプログラムの準備で、親子さんにかかわる余裕はゼロですが)。

ビデオ視聴 簡単なレクチャー

休憩・水分補給が終わったあと、短

図3



時間のビデオ視聴と簡単なレクチャーをしました。

10分程度のビデオは右の三点をまとめた内容のものです。

ビデオ視聴をはさんだのは、親子さんの集中力の問題と、次のサーキットの道具の準備のため、そして映像のほろが、説得力があるためです。適当なビデオがなければこれは省略するか、前出「ことばのビル」の図を使って

からだ遊び その2 サーキット

「からだ」「こころ」「ことば」の発達の関係を詳しく述べるのもいいかもしれませんがね。ビデオにするにせよ、レクチャーにするにせよ、その目的はからだを使った遊びは、ことばを育てる上で、大いに意味があると理解していただくことです。

休憩とビデオ視聴の間に、サーキットの準備をします。このサーキットは、いくつかの動きを組み合わせて、順番に流れてゆく体育的な遊びです。この遊び方教室では、①どこがスタートでどこがゴールか、はっきりさせる ②どのような動きが要求されているのか、たくさんことばをかけなくても、見れば分かるような遊具の設定を大切にしました。詳しくは左ページの表をご覧ください。